

～ 豊かな学びの実現 ～

地域防災における東予高校との連携 地域の方に防災ベンチの使い方を普及

東予高校機械科との協働した学び。両校の学びを共有し、より深い学びにつながりました。

防災ベンチ使い方実演 西条の高校生

高校生が制作した防災ベンチの展示・実演が10日、西条市丹原町北田野のJA周桑田野支所であり、東予高校と丹原高校の生徒が非常時の使い方を住民らに説明した。

東予高では約3年前から生徒が防災ベンチを制作。座台の下にバーベキューコンロが付いており、緊急時盆踊り大会に合わせて実演の機会を設けた。

生徒は、防災ベンチの背もたれを倒して座台を外すだけで調理台になると説明し、高齢者や小学生に使い方を披露した。丹原高は国の「学校防災教育実践モデル地域研究事業」の拠点校として、東予高と共同で防災の取り組みを進めている縁で、生徒が自校で栽培した野菜を振る舞った。

8日に南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が出され、住民の関心も高まっている。東予高3年塩路礼鳳さん（17）は「防災意識の面で今が一番大事なので、多くの人が利用できるよつになれば」と話していた。（高橋圭太）



ベンチを調理台にする方法を地元住民に説明する高校生

最近も、地震、大雨、土石流、台風など、身の回りに大災害が起きている。地域の防災意識を啓発し、高め、高校と地域が連携することで、更なる地域防災の強化につなげます。